

## 第1学年 生活科 学習指導案

菊池市立旭志小学校

教諭 本越 暁葉

### 1 単元名 「いきものとなかよし」

#### 2 単元の目標

- 身近な動物を探したり飼ったりする活動を通して、身近な動物は生命をもっていることや成長していることに気付くことができる。(知識・技能)
- 身近な動物を探したり飼ったりする活動を通して、身近な動物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができる。(思考・判断・表現)
- 身近な動物を探したり飼ったりする活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

#### 3 単元について

##### (1) 教材観

本単元では、小学校学習指導要領解説生活編（7）「動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする」を受け、児童一人一人が身の回りの生き物と触れ合う活動を中心に設定したものである。

本単元では、校庭などの草むらで生き物を探し、捕まえた生き物を観察したり、えさやすみかを用意して飼ったりする活動を行う。生き物の生息している場所の特徴や、変化や成長、生き物は生命をもっていることなどに気付き、生き物の立場に立ってすみかや世話の仕方などを考えることができるようになると考える。生き物の観察や生き物を育てたあとはその活動を振り返り、気付いたことや考えたことを伝えあい、生き物を大切にすることを養いたい。また、生活科の学習だけに留まらず、普段の生活においてもその他の生き物に興味をもたせるとともに、旭志の基幹産業である畜産などに目を向けさせ、後期に行う人権学習の「モーモー探検」につなげることもねらいとしている。

##### (2) 児童観

本校は、周りに山や田畑が多くあり、日常的にバッタやかまきりなどの虫を児童が目にする機会が多い。また、牛や豚などの畜産や米や野菜などの農家が多く、動植物を相手に仕事をされている家庭がとて多い地域である。本学級の児童は、何事においても興味をもって取り組む。入学してすぐに行った「きれいにさいてね」の単元においてもあさがおの種を植え、芽が出ると大喜びし、花が咲くのを待ち望みながら水やりをしていた児童が多くいた。虫に関しても興味をもっている児童は多く、カブトムシやクワガタムシを見つけたと嬉しそうに話してくれる児童がいた。しかし、中には、虫が苦手で、触れ合うことに抵抗のある児童もいる。また、生き物の生命の大切さに気付くまでには至っていないと感じる場面もある。

### (3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、課題設定において、子どもたちの生活経験の中で触れ合ったことのある生き物や校庭にいる生き物について尋ね、「虫をつかまえたい」という思いを引き出し、生き物探しを行う。どんな虫がいたかをみんなで出し合い、「いろいろな虫を飼ってみたい。」という思いを大切にしながら、「生き物と仲良くなるにはどうしたらよいだろう」という課題設定をする。

次に、生き物と仲良くなるためにはどのようなすみかにすればよいか、えさは何をあげればよいかなどを一人一人に考えさせる。虫の変化やすみかの様子を観察し、学習シートに記録する。常時活動として、家庭から持ってきた虫かごや水そうに虫を入れ、環境を整えたり、えさをあげたりすることを子どもたち自ら行うことで、虫に親しみをもち、虫の成長や生命の大切さに気付かせるようにする。

そして、育てた虫を自然にかえすことで、虫の生命を大切にできたという実感をもたせる。途中で死んでしまった場合は、どうしたらよいか子どもたちに考えさせ、土に埋めるなどの活動も子どもたち自身で行わせる。授業や常時活動での子どもたちのつぶやきを大切に、全体で紹介することで、様々なことに気づいていることを実感させるとともに、虫の命を大切にしている良い行動を広めたい。振り返りでは、生き物の観察、すみかやえさについて、生き物を育てて気付いたことや感じたことを伝え合い、自分の育てた生き物や自分が気付いたことと比べながら聞いたり、教え合ったりすることで、気付きの質を高めたい。

### (4) ESDとの関連

#### ・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

**多様性**…自分たちの身の回りには、様々な生き物が存在していること。

**相互性**…身近な生き物は自然の中で、他の生き物を食べて自分の命をつないでいるということ。

**有限性**…生き物の生命は人の生命と比べて、短くはかないものであること。

#### ・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

##### **多面的・総合的に考える力**

生き物が喜ぶすみかにするには、どのようなえさやすみかづくりをしたらよいか考えたり、教え合ったりして、繰り返しお世話をする。

##### **コミュニケーションを行う力**

生き物に親しみをもって関わり、お世話の仕方について伝えあうことを通して、すみかづくりをよりよいものにしていき、生き物と仲良くなろうとする。

##### **進んで参加する態度**

生活科の時間以外にも、日常的に生き物を観察し、お世話をして、生き物の生命を大切にしようとする。

・本学習で変容を促すE S Dの価値観

自然環境、生態系の保全を重視する

えさやりやすみかづくりを通して、生き物に必要な環境に気付き、生命が連続していることや自然の大切さについて考える。

人権・文化を尊重する

すべての生き物には生命があり、大切にしなければならない。

幸福感に敏感になる、幸福感を重視する

自分たちが快適に生活しているように、生き物にも住みやすい環境があることを知る。

・達成が期待されるSDG s

- 1 1 住み続けられるまちづくりを
- 1 5 陸の豊かさも守ろう

4 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 校庭の虫の特徴や育つ場所、虫が変化していることや生命をもっていることに気付いている。</p>	<p>① これまでの経験から世話の仕方を想像し、世話の仕方を決めている。 ② えさやりや掃除などをしながら虫の様子を観察し、虫に合った世話をしている。</p>	<p>① 身近にいる虫に興味をもち、親しみをもって関わろうとしている。 ② 虫の様子に応じて世話の仕方を変えることの大切さを実感し、これからも生き物を大切にしようとしている。</p>

5 単元の指導計画（全6時間）

学習活動	○学習への支援	○評価 ・備考
<p>【むしをさがそう】</p> <p>1 校庭に出かけて虫を探し、観察したりして、単元の課題を立てる。</p>	<p>○校庭や身近で見つけた生き物について話させ、「虫を探したい」という意欲が高まるようにする。</p>	<p>(ア) ① 知技</p>
<p>2 虫を探したり、捕まえたりする。</p>	<p>○どんなところにいたか、どんな様子だったかなどを問ひかけ、虫のすむ場所や特徴について関心を向けさせる。</p>	<p>(ウ) ① 主体的</p>
<p>3 つかまえた虫を友達と見せ合い、捕まえた場所や捕まえ方、虫の様子などを記録カードに書き、これからどうするか話し合う。</p>	<p>○教室に連れて帰りたいという児童の思いを大切にし、虫を飼育するにはどのような準備が必要かを考えさせる。</p> <p>○飼育ケースには、草や土を入れたり、えさを用意したりするなどの世話が必要であることを確認し、次時からの活動につなげる。</p>	<p>(イ) ① 思判表</p>
<p>【むしとなかよくなるよう】</p> <p>4 より適切な虫の飼い方を調べたり、同じ種類の虫を飼っている友達と相談したりして、飼育環境を整える。</p> <p><b>常時活動</b> 休み時間や朝の時間などを使って、えさの用意をしたり、すみかを整えたり掃除をしたりして、虫の世話をする。</p>	<p>○虫が死んでしまわないよう、前時から日にちを空けずに授業を行う。児童にも「虫となかよくなる」よう、毎日様子を見たり、すみかを工夫したりして、死なせないようにと注意喚起をする。</p> <p>○虫に関する本や図書室の資料を学級においておき、すぐ読めるようにしておく。</p> <p>○常時活動が主体的に進められるよう、教室の中に虫かごスペースを設け、声掛けをする。</p>	<p>(イ) ② 思判表</p>
<p>5 育てていて気づいたことを記録カードに書いて伝え合い、これからどうするか話し合う。</p>	<p>○飼育している過程やお世話の仕方など観察カードに記録し、伝え合うことで、よりよいすみかを作ろうとする意欲を高める。</p> <p>○弱ってきた虫や死んでしまった虫のことも考え、今後はどうしたらよいかみんなで出し合い、元の場所に戻す。</p>	<p>(ア) ② 知技</p>
<p>6 虫を元いた場所に戻し、虫のお世話の仕方や、飼う前と飼った後で気づいたことなどを振り返る。</p>	<p>○虫となかよくなれたという実感や命のはかなさ、命を守ることの大変さに気づいている児童の振り返りを取り上げ、後期の「モーモー探検」へとつなげる。</p>	<p>(ウ) ② 主体的</p>